

個々のタスク	小目標	中目標	大目標	テーマ					
既存の調査の有無を調べる。それが使えるかどうか検討する。	日本の高校生が日課としてしていることを調べ、「典型」的なパターンを幾つか設定する。	日本の高校生の典型的な日常生活を、幾つかのパターンで描き出す。							
どのような人を対象に、何人に調査するか、どのような調査方法を採用するかを話し合っ									
調査した結果を持ち寄って分析し、典型例を設定する。									
上に同じ。									
【形成的評価】 「日課」と「余暇」のそれぞれについて想定した数種類の典型をレポート（日本語で書く）にして提出させる→ここで決めた「典型」は以下の語彙と文型を選択の参考にする。									
（語彙の導入～文型の導入～プレコミュニカティブな活動などのタスクを活動順に記述する）	曜日と言える。	ある時点（○曜日の午前／午後○時）を表現できるようにする。							
	時刻と言える。								
	午前・午後などの区分と言える。								
【形成的評価】 いろいろな時点を提示し、それを目標言語で表現できるか、ペーパーテストで確認する。									
（語彙の導入～文型の導入～プレコミュニカティブな活動などのタスクを活動順に記述する）	一般的なルーティンワークを言える。	日課として行っている行為や習慣的な行為（例: イヌと公園でダンスをする）を表現できるようにする。							
	どこですかなどを言える。								
	誰とするかなどを言える。								
	どの時点ですかを言える。								
【形成的評価】 上の時点の表現と組み合わせて、日課や習慣を表現するのに必要な表現が組み立てられるかどうか、ペーパーテストで確認する。									
自分の日課を中国語で表現してみる。	自分の表現したいことに必要な言語項目で、まだ自分が使えない項目を認識することができる。								
既習の学習項目では足りないところをリストにする。									
【形成的評価】 「足りないリスト」を提出させる。→「言い換え、回避、代替手段の利用」などのストラテジーをフィードバックする。									
グループ内で「足りないリスト」を持ち寄り、教えあえるところは教えあう。	不足している知識を学習者だけで補い、その妥当性の検証を試みることができる。	既習の言語表現を有効に活用し、また、不足する知識は自分たち（学習者仲間）で補い、日課などに関して「自分自身のこと」を語れるようにする。							
1つの項目に対し、複数のリソースを調査し、結果を持ち寄り、妥当な表現を選択する。									
【形成的評価】 「特定の曜日に自分がすること」「自分の平均的な一週間の行動」などのうち、自分が発表をするときに使うスクリプトを提出させる。→誤りを訂正するフィードバック。									
【形成的評価】 「特定の曜日に自分が～」「自分の平均的な一週間～」などについて中国語で発表させ、録画。他の学習者にも「誰のプレゼンが聞き取りやすいか」を評価させる。→最後の活動での発表者（複数が望ましい）の選定に利用。									
（語彙の導入～文型の導入～プレコミュニカティブな活動などのタスクを活動順に記述する）	「週末」「夏休み」などを表現できる。	長期から短期まで余暇の種類を表現できるようにする。							
	「時間があるとき、たまに、授業が終わってから」などの条件を表現できる。								
	一般的な余暇の活動を表現できるようにする。	余暇にするさまざまな活動を表現できるようにする。							
	誰とするか、どこですか、頻度などの条件をつけて余暇の活動を表現できる。								
【形成的評価】 上の余暇の種類と組み合わせて、余暇の活動を表現するのに必要な表現が組み立てられるかどうか、ペーパーテストで確認する。									
上記の「……日課などに関して「自分自身のこと」を語れるようにする」の作業の繰り返し。									
【形成的評価】 「特定の曜日に自分がすること」「自分の平均的な一週間の行動」などのうち、自分が発表をするときに使うスクリプトを提出させる。→誤りを訂正するフィードバック。									
【形成的評価】 「自分が夏休みによく～」「自分が週末によく～」「自分が時間があるときよく～」などでテーマで中国語で発表させ、録画する。他の学習者にも評価させる。→最後の活動での発表者（複数が望ましい）の選定に利用。									
中国の高校生の典型的な1日／1週／余暇の過ごし方を調べて、日本のそれと対照する。 最初のレポートでまとめた「典型例」を中国語で表現することを試みる。 留学生の助けも得て、特に説明が必要な項目を選び、それを説明するための方策を考える。	社会や文化に関する予備知識なしには理解しにくい、自分の住む地域の「日々の行動」「余暇の行動」を見つけだし、そのギャップを解決する方法を考え出せる。	相手が理解しやすい情報と理解しにくい情報（文化依存・社会依存などの理由で）を推測し、さまざまなストラテジー（身振り・手振り、言い換え）やリソース（マルチメディア資料）を駆使し、そのギャップを乗り越えることができるプレゼンテーションをすることができる。							
					【形成的評価】 「典型例」を中国語で説明するとスクリプトを書き、提出する。→誤りを訂正するフィードバック。				
					最後のプレゼンのための分担を決める。				
さまざまな補助的資料を集める。	プレゼンテーションを完成させる。								
プレゼンテーションの練習をする。									
【形成的評価】 公開練習を行い、他の教員や、自分より上のレベルの学習者、留学生に見てもらおう。→フィードバック。									
【総括的評価のための活動】 プレゼンテーションを撮影し、交流相手の姉妹校に送り、「自分たちと何が違うか」についてコメントをもらう。返ってきた反応に対する分析を含め、自分の活動を振り返ったレポートを書く。									

日本の高校生の典型的な日常生活を、中国の高校生に、それぞれの社会や文化の違いに配慮しつつ、いろいろな手段を利用して中国語で伝えられるようにする。

【テーマ】
日本と中国の高校生の日常生活のちがいを探る。